

学校だより



あたらしき あたたかさ たくましき

われらの金池

令和7年9月1日

第 6号

大分市立金池小学校

文責：校長 安藤稔

2学期スタート ～「たくましき」を磨く～

9月1日、44日間の夏休みを終え、学校に子どもたちが帰ってきました。まずは、「命を守り」無事に過ごせたことが一番です。

始業式では、校長から次の話をしました。

- 夏休みに出合った「自分だけの宝物」を大切に、2学期頑張る源、パワーとして学校生活に生かすこと。
- 2学期は、三さのうち特に「たくましき」を磨き上げること
 - ・ 運動会など、自分のめあてを決め、達成のために頑張る「たくましき」
 - ・ 勝敗が決まってしまうが、負けたことを受け入れる潔い「たくましき」
 - ・ 頑張っているけど、途中であきらめ、もうこれ以上無理となる場面があるかもしれないが、そんな時は、周り（先生、家族、友達など）に頼り、「助けて、手伝って」と言えることも立派な「たくましき」（アンパンマンは、顔が濡れて力が出ないとき、周囲に助けを求めることができます。）
- 長い2学期、秋の夜長、読書に親しむことも大切です。



9月、規則正しい生活習慣で、学校生活のリズムを取り戻し、10月の運動会練習に取り組む体力を身に付けておいてほしいと思います。

保護者、地域の皆様、まだまだ残暑厳しい日々が想定されますが、2学期も金池の子どもたちをどうぞよろしくお願いいたします。



【夏休み作品展 ～作品の背後にあるその子の夏休みが感じ取れます～】

すでに各教室や学年コーナーでは、夏休みに各自で取り組んだ作品が並べられています。一つ一つに子どもの取り組んだ背景が想像でき、鑑賞は、長期休業明けの楽しみの一つです。

私の、作品提出では、「わらぞうり」が思い出されます。小学校6年生の2学期、地域の方から「わらぞうり」の作り方を教えてもらいました。なんとそのわらぞうり作りが、冬休みの宿題となっていました。田舎だから「わら」が各家にあるのは当然という前提です。両足の指を使って、なんとか思い出しながら1足作り上げました。思っていたよりずいぶん小さくなりました。とても履けるものではなく見た目も不格好でした。冬休みが明け、始業式。他の子のわらぞうりを見ると、それはそれは立派です。中には、鼻緒の部分に赤い布を巻き込んで、すぐに履けるようなぞうりもありました。みんなお家の人に手伝ってもらったんだなと子どもながらに思っていたんですが、それでも、自分のわらぞうりをどうしても出すことができず、「忘れました」などと言ってその日は出せませんでした。翌日の放課後、こっそりと隅っこに、わらぞうりを置きました。翌日、友達から何か言われるかと思っていたんですが何も言われませんでした。その日の日記帳を見ると、先生から「一人でよくあれだけ作れたね。よく頑張りました」と書かれていました。うれしかったと同時に提出を恥ずかしがっていた自分を恥じていました。

【来週から教育実習生が来ます。】 9月8日(月)～10月3日(金)までの間です。良い実習をして近い将来、教師となり、共に大分の子どもたちのために頑張れたらと思います。